

B-31 土壤による綿布の汚染性とその洗淨 (第4報) — 腐植質土壤と腐植土が  
県立新潟女短大 高橋 功, 新潟大教育〇高橋類子 \*汚染性—

目的 鈣質土壤に較べ腐植含量の多い腐植質土壤, 腐植土は, その汚染布がムラ汚染の多いことを前報で報告した。ここでは腐植含量を異にする腐植質土壤, 腐植土計13点と綿白布2種を用い, 腐植含量と汚染布のムラ汚染の関係を検討した。

方法 1): 要因と水準, 綿布2種(いずれも天児級,  $C_1$ …タテ60×ヨコ60, 密度102×98,  $C_2$ …タテ20×ヨコ20, 密度24×23)。土壤13種(腐植含量9.4~34.8%)。土壤重量3水準(1, 2, 3g)。2): 土壤調製法と汚染布調製法は前報々とおりに。3): 調査項目, 反射率, 汚染布のムラ汚染の程度(汚染布反射率のC.V.と肉眼判定)。

結果 1): 汚染布の反射率低下は,  $C_1$ は土壤重量の増加とともに直線的で,  $C_2$ では層曲のあるものがあった。反射率の大小を $C_1, C_2$ で較べると土壤重量で若干異なるが,  $C_1 > C_2$ の土壤が7点,  $C_2 > C_1$ の土壤が6点であった。土壤の腐植含量と汚染布の反射率の関係は,  $C_1$ では2, 3の例外を除き土壤の腐植含量の多いほど反射率は低く,  $C_2$ ではほとんど無関係のようであった。

2): 反射率のC.V.は,  $C_1$ より $C_2$ の大きい場合が多かった。腐植含量とC.V.の関係は,  $C_1$ では土壤1, 2gの場合腐植含量の多い程C.V.が高い傾向で, 3gでは一定の傾向が見られず,  $C_2$ では土壤3gの場合腐植含量の多いもので極端にC.V.の高いものがあったが, 1, 2gでは関係が見られなかった。

3): 肉眼判定でも1), 2)とほぼ同様なことが観察された。